

徳島パビリオンの展示設計の状況について

基本計画 (R5.3)

「S (sustainable)-TRIP」をコンセプトに、先端技術を活用し、徳島の伝統から現在、「サステナブルな未来」を表現



基本設計において検討

【ソフト面】

- ・ 体験メッセージ・空間デザイン
- ・ 運用面 (待機列・動線整理)

【ハード面】

- ・ ユニバーサルデザインに配慮した空間・動線
- ・ スペース利用 (バックヤード・機材)
- ・ 設備面 (電力・照明・音声・ネット環境・空調)

基本設計進める上での考え方

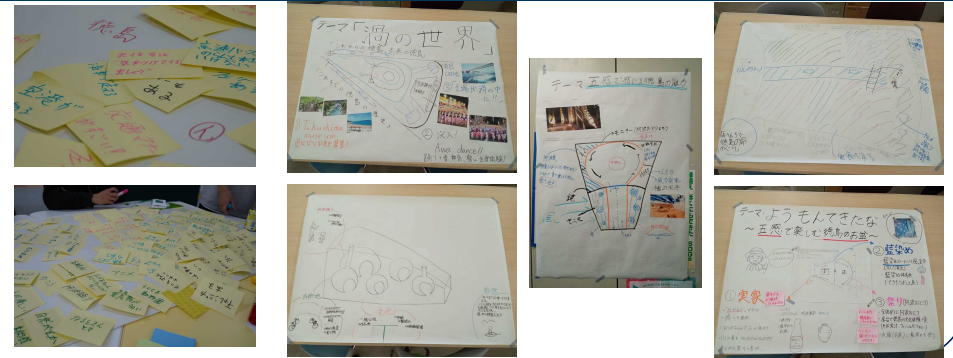
【万博を県民の舞台へ】

- ・ 徳島発の技術、工芸 (LED、阿波藍、木工など) を活用
- ・ 子ども、学生等若い世代による展示パーツ制作など参加型パビリオンに
- ・ 万博後は展示物をリユースし、県内施設での活用や巡回展示などレガシーとして展開

【万博を徳島の未来へ紡ぐ】“学生と知事”によるワークショップでの展示アイデア

【学生の皆さんの意見】

- ・ 五感で感じる (風、におい)
- ・ 長時間滞在で疲れた人のやすらぎ空間に (“実家”感、癒やし)
- ・ 渦の中をイメージさせる会場
- ・ 伝統 (これまで) と未来 (これから) を表現
- ・ 県民参加型 (募集した写真の展示)
- ・ 藍染カーテン (涼を感じる)
- ・ 音 (祭り、川の流れ)
- ・ 阿波おどり (踊りたくなるパビリオン)
- ・ SDGs (ゼロウェイストなど)



スペース設計のキーとなる要素

「藍色」を中心とした青系をキーカラーに



「伝統工芸」をデザインモチーフに

木工 和紙 阿波藍 etc.



スペース全体を展示物として捉え、手触りや匂いを体感

ヴァーチャル観光を主たる体験コンテンツに



没入型映像による視覚と音で観光資源の印象を強く持ち帰る

現在進行中の計画

体験の軸を徳島の“サステナブル”“ナチュラル”“スピリチュアル”とし、阿波藍で染められた空間の中央に、「伝統から紡ぐ未来」[鳴門の渦潮]をイメージさせる象徴的な伝統工芸による造作を設置。内部にはヴァーチャル観光シアターを備え、壁面やオブジェ周囲にはデザインを共通にした展示スペースを設ける。オブジェを中心にして 緩やかな導線を作ることで海・川の水流をイメージした表現。

